令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【与野南中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	さいたま市学習状況調査の結果から、国語科「敬語の働き」や「行書とそれに調和した仮名の書き方」、社会科「我が国の再生可能エネルギーの開発状況」の設問の正答率が市平均との比較において有意に低いことが明らかとなった。以上に挙げた内容は、どれも日常生活との結びつきの強い内容である。今後は学び取った内容が実生活と如何に接続するのかをICTを活用したり、実物を提示したりすることなどで、学びの日常化を図っていく。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査の結果から、国語科「目的に応じて適切な情報を得て内容を解釈できるかどうかを見る」「文章全体と部分との関係に注目しながら、主張と例示との関係を見れるかどうかを見る」、数学科「統合的発展的に考察し、得られた数学的結果を事象に即して解釈することができる」の設問の正答率が市平均との比較において著しく低いことが明らかとなった。以上に挙げた内容は、読み取った内容を適切に要約することのできる力の不足を示しているものと考える。ゆえに学校図書館の利活用や調べ学習などを通じて、多くの情報から必要なものを取捨選択する機会を増やしていく。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目における肯定的な回答の割合を90%以上を維持する。そして、単元内自由進度学習を深めていくために、より一層の「話し合い活動」を軸とした協働的な学びの充実、ICTを効果的に活用した授業改善を進め、個に応じた学習活動の展開と学習を自走させる授業実践のあり方を検証していく。

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	基礎的・基本的な知識及び技能を習得させること。令和5年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」部分で、市平均を上回ること。 自校の「やり直しテスト」において、「知識・技能」の平均点が、本番のテストより向上すること。	⇒	教科の特性に応じて「単元内自由進度学習」を取り入れ、スタディサプリやドリルパークを活用して生徒の学習段階に応じた課題を選択させ、生徒の理解度に応じて個別の指導を行う。定期テスト後に「やり直しテスト」を全教科で実施することにより、知識の更なる定着を図る。また、各教科で学習する内容を網羅的に考える指導をしていく。
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」部分で、市平均を上回ること。 自校の「やり直しテスト」において、「思考・判断・表現」の平均点が、本番のテストより向上すること。	⇒	各教科の授業で、根拠をもって説明したり、データから理由をはっきりさせて説明したりする場面を設定する。また、課題に対する根拠を説明する場面を設定する。教科の特性に応じて、学習課題や作品作りに取り組む際に、teamsやムーブノートの課題機能を活用して、友だちの考えに触れて、自己の思考に対して検証を行う。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査の質問項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」で、肯定的な回答の割合を90%以上にすること。また、「学び方を学ぶ」ことを通じて、自己肯定感を高めながら自律的に問いを選び、学習を進めようとする意欲・態度を高める。	⇒	各教科の授業で、学習目標・めあてを明示し、自己解決にあたる振り返りで、課題の解決に向け友だちと話し合う時間を設定する。学級活動の協働的な学びの一助となる「話し合い活動」を最低でも毎月1回実施する。また、各教科での学習の成果を途中段階においても評価し、積み上げていく指導を行う。併せて、単元内自由進度学習の中で、学び方の相互評価を行い、自らの学び方を見出させる指導を行う。

⑤ 目標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、市の平均正答率と自校の平均正答率結果とを比較し、概ね市平均を上回ったが、第二学年の国語及び社会のみ、下回った。教科の特性に応じて「単元内自由進度学習」を取り入れ、またスタディサプリやドリルパークを活用して生徒の学習段階に応じた課題を選択させた。そして生徒の理解度に応じて個別の指導を行った。「やり直しテスト」において、「知識・技能」の平均点が、本番のテストより向上した。	A
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」において、市の平均正答率と自校の平均正答率結果とを比較し、概ね市平均を上回ったが、第二学年の国語及び数学のみ下回った。各教科の授業で、teamsやムーブノートの課題機能を活用し、根拠をもって説明したり、データから理由をはっきりさせて説明したりする場面を設定した。「やり直しテスト」において、「知識・技能」の平均点が、本番のテストより向上した。	A
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査の質問項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」で、肯定的な回答の割合が 92 %であり、目標の学校平均 90 %を上回ることができた。しかし、一学年で、目標数値を僅かに下回る結果となった。	A

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（概ね達成） C 6割未満（あと一歩）

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査の「知識・理解」において、全国（公立）の平均正答率と自校の平均正答率を比較し、すべての教科で全国平均を上回った。一方、各教科で定着率の低い分野・単元が数ヶ所あることが明らかになった。特に、数学の「累積度数」を求める問題は、埼玉県平均と比較して正答率が低く、1年生でのみ学習する内容であることもあり、問いの意味を理解しておらず、知識として十分に定着していない可能性が考えられる。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国（公立）の平均正答率と自校の平均正答率を比較し、すべての教科で全国平均を上回った。一方、各教科において、文章で記述したり、説明したりする問題の無回答も散見された。特に、英語の短い英文の概要として適切な英文を選ぶ問題で正答率が低く、本文から問われている情報を一部理解できていないこと、要約する技能が不十分であること考えられた。定期テストや日々の授業の中で、要約を中心とした活動を継続し、授業改善に努める。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は91.4%、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目においても肯定的な回答が93.7%であり、全国平均を上回った。今後もより一層、「話し合い活動」を軸とした協働的な学びを充実させていけるよう授業改善に努める。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。

中1	令和5年度さいたま市学習状況調査において、市の平均点と自校の平均平均点を比較し、全ての教科で市平均を上回ることができた。
中2	令和5年度さいたま市学習状況調査において、市の平均正答率と自校の平均正答率結果とを比較し、数学・社会・理科で市平均を上回ることができた。一方、国語の話すこと・聞くこと・書くこと・読むことに関する問題、社会の世界と日本の地域構成に関する問題で市平均を3ポイント以上下回るなど、課題が見られた。全体を通して、言語に関する基礎的な知識が定着していない可能性が考えられることから、学習内容の定着を図るための要約活動や定期的な振り返りの学習活動を設定する必要がある。
中3	令和5年度さいたま市学習状況調査において、市の平均点と自校の平均平均点を比較し、全ての教科で市平均を上回ることができた。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	<追加の策>友だちとの話し合い活動を通して「学び方を学ぶ」ことを意識したテスト時の学習計画表を作成し、実施する。他者の考えに触れる機会を重視し、読書やNIE指導の充実を図り、活字に触れる機会を設定する。